

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 米子工業高等学校

重点項目	専門人材育成	提出日	令和4年4月19日
------	--------	-----	-----------

1 学校目標	
1 工業高校生らしいエチケット・マナーと心身の健全な育成 2 キャリア教育の充実と学力向上による進路実現 3 新しい時代を創造し活躍できる工業人の育成 4 開かれた学校づくり 5 学校業務改善の取組	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
1 米工の伝統を受け継ぐものづくり人材の育成	1 第一種電気工事士、第三種電気主任技術者、公害防止管理者水質四類などの難易度の高い資格を含め、多くの国家資格や検定試験に合格した。 コロナ禍で大会が中止になる中での、ものづくりコンテスト中国大会旋盤作業部門出場や全国高等学校ロボット競技会で奨励賞を受賞するなど日々生徒はものづくりの技術向上に努めた。
2 3年間体系・系統立ったキャリア教育による進路意識の高揚	2 県外企業見学は実施できなかったが、情報電子科、環境エネルギー科以外は、地元企業見学を実施した。また、インターンシップは新規企業を開拓して全科が実施することができた。卒業生の定着指導と在校生への紹介等、生徒の進路意識の高揚に繋がる活動ができた。
3 開かれた学校づくりの推進	3 コロナ禍のために夏の中学生体験学習は中止になったが、秋の学校見学会はオンラインで説明するなど実施方法を工夫して実施し、200名程度の参加者があった。出前授業（情報電子科の小学生へのIT指導、環境エネルギー科の小学生への工作教室）や地域貢献（機械科のゴミストッカー提供とマチナカクリスタル、電気科のテクノボランティア、建設科のベンチ提供）等を通じて本校の取組を地域の人に理解してもらう活動ができた。
<数値目標>	<数値結果>
1 ジュニアマイスター取得者は卒業生の2割以上を目指す。	1 令和3年度ジュニアマイスター取得者 電気科1名、情報電子科1名が特別表彰を受賞する事が出来た（うち1名は理事長賞も受賞）。

<p>2 第二種電気工事士卒業時取得者7割以上を目指す。</p> <p>3 毎年度実施の学校アンケートで、以下の結果について、それぞれ80%以上を目指す。</p>	<p>ゴールド <u>13名</u> (特別表彰2名含む) シルバー <u>18名</u> ブロンズ <u>35名</u> 計 66名 (特別表彰含む) 卒業生の34.6% (66/191) が取得した。</p> <p>2 第二種電気工事士取得者 令和3年度卒業生 電気科 78.9% (30/38) 環境エネルギー科 78.9% (30/38) 全体 78.9% (60/76)</p> <p>3 令和3年度学校アンケートの結果 [生徒対象] ・「インターンシップは勉強になったし、充実していた」・・・ 88.5% ・「自分は実習を通じて、技術・技能が身についた」・・・ 90.7% [保護者対象] ・「本校は、企業見学、インターンシップ等が充実している」・・・ 85.8%</p>
---	---

3 実施事業

<p>【高等学校課事業】</p> <p>1 外部人材活用事業 (社会人講師活用事業)</p> <p>(1) 「電気工事の実技指導」について 少人数のグループに対して指導者1名での技術指導をすることで、生徒が意欲的に取り組み作業技術が向上し28名が第二種電気工事士に合格した。</p> <p>(2) 「音の制御技術」について 有識者を招いて講義を実施する予定だったが、コロナ禍で実施を見送った。</p> <p>2 ふるさとキャリア教育充実事業</p> <p>(1) 社会人となるための心構え 進路が概ね決定した3年生を対象にライフ&キャリア応援塾エールSMD代表・宮崎努氏に「社会人になるための基礎力育成講座」をテーマに講演会をリモートで実施した。</p> <p>【独自事業】</p> <p>1 専門的資格取得の推進</p> <p>(1) 機械加工技能士 (普通旋盤作業) と電気工事士の資格取得に対する支援 機械加工技能士 (3級普通旋盤作業) は4名が取得した。そして、第二種電気工事士は81名が取得し、難関の第一種電気工事士も8名が取得した。また、事業外であるが超難関の第三種電気主任技術者に1名、公害防止管理者水質四類に1名合格した。</p> <p>2 インターンシップ・県内企業研修・県外企業研修の充実</p> <p>(1) インターンシップの充実 コロナ禍のためにインターンシップの受け入れを断られた企業があったが、新規の企業を開拓したことで2年生全員が就業体験をおこなった。そして、この体験をとおして、職業人としての心構</p>	
---	--

えや姿勢について学んだ。また、現場での実習を通して、専門的な知識や技術・技能に触れることで、学習意欲の向上を図ることができた。

(2) 企業研修の充実

[1年生]

環境エネルギー科以外は、地元企業の現場視察を行い、産業界全般に対する認識を深めさせ、将来の進路選択に一層明確な目標を立てさせた。

[2年生]

コロナ禍のために県外企業研修は中止し、情報電子科と環境エネルギー科以外は県内企業研修を実施した。

3 ものづくり事業の充実

(1) 高校生ものづくりコンテスト活動支援

日々技能の錬成に励むことで地域産業を担う人材育成に貢献できた。そして、旋盤作業部門では、中国地区大会に出場することができた。

(2) 技能五輪出場を目指す人材づくり

コロナ禍のために、技能五輪に取り組む企業への見学が出来なかった。

(3) 各種大会・課題研究への支援

コロナ禍のために、各種大会が中止または参加できないことがあった。マイコンカーは中止になったが全国大会へ、アイデアロボットは全国大会のオンライン開催で健闘した。

活動は、課題研究や部活動等で続けており、着実に生徒のレベルアップに繋がっている。

(4) 環境エネルギー科充実支援

① チャレンジ SDG s (クリーンエネルギー講座の開催)

コロナ禍のために、講演を開催が出来なかった。

② ソーラーラジコンカーの製作

ソーラーラジコンカーの全国大会はコロナ禍のために参加を見送ったが、課題研究でソーラーラジコンカーの製作を行った。

③ 指導力向上に向けた講習会への参加

全国工業高等学校長協会などの講習を予定していたが、コロナ禍のために中止となり、実施できなかった。

④ 電気系資格取得の推進

第二種電気工事士の資格取得に向け、電業協会に依頼して外部講師を数名招き、技能の習得を行った。プロの技能を間近で見ることができ、良い機会となった。多くの生徒が第二種電気工事士を取得し、キャリアアップへと繋がった。

4 総合所見 (成果・評価)

ものづくり人材の育成については、コロナ禍においても内容や実施方法を工夫して学校独自事業を行ったことで、多くの場面で生徒の技術レベル向上が果たせた。多くの大会が中止や延期となったが、その中でも生徒は出来ることを見つけて前向きに取り組んだ。ジュニアマイスター取得者も例年並みの高水準を維持し、令和3年度は特別表彰者を2名輩出した。第二種電気工事士についても、各科の継続的な取り組みが功を奏している。

キャリア教育については、校内では系統だった指導を行い、生徒の進路意識の向上に繋がった。インターンシップは実施できたが、県外企業研修は実施できずに代替えとして県内企業研修を実施した。コロナ禍にもかかわらず令和3年度の就職希望者1次内定率は89%と好調な成果だった。

開かれた学校づくりについては、コロナ禍においても工夫しながら各科とも非常に積極的に取り組み、近隣の小中学校や自治会との充実した交流ができた。今後の継続が望まれている。

今後とも各事業を活用して、地域産業界の期待に応えられるものづくり人材育成に取り組んでいきたい。

※枚数任意